

平成30年3月霧島山(新燃岳)噴火に伴う対応

平成30年3月15日
砂防部

- 霧島山(新燃岳)で平成30年3月1日11時頃噴火が発生。3月6日以降、14日15時までに爆発的噴火が45回発生。また、6日以降、火口内で溶岩の盛り上がりを確認され、9日には北西側への流出が確認された。(噴火警戒レベルは3が継続)
- 降灰状況及び火口付近の状況の把握のため、九州地方整備局がヘリ調査(3月1日、6日、9日、10日、14日)や地上からの現地調査(3月2日、3日、6日、7日)を実施。
- 14日のヘリ調査では、前回調査(10日)と同様、山麓で明瞭な降灰の堆積は認められなかった。また、火口縁を乗り越えた溶岩の範囲は、目視で幅、長さとも前回調査時よりやや広がっていることを確認した。今後も火山の状況を注視しながら観測を継続する予定。

[なお、新燃岳周辺の雨量観測所(矢岳観測所)で、3月5日に最大時間雨量約40mm、累積雨量約100mmの降水を観測したほか、3月8日にも累積雨量50mm超の降水を観測したが、土石流の発生は認められていない。]



火口縁を乗り越えた溶岩の移動状況(上:3月10日12時頃、下:3月14日14時30分頃)



高原町市街地の降灰状況(3月14日)



高千穂河原ビジターセンター付近の降灰状況(3月14日)